



特別講習講師会議を開催

～学科・実技資料の見直し・制作が決定～

9月20日、熊本市東区の熊本県市町村自治会館において特別講習講師会議が開催されました。

来賓の奥村一精教育委員長が、「学科資料、実技資料の見直し制作を行っていただくとのことであるが、このような資料制作は、教育委員会でも事務局でもできず、教育のエキスパートである皆様でなければ制作することは不可能である。合格率向上のため、受講生のスキルアップのため、ひいては警備業の発展のため、ぜひ素晴らしい資料を制作していただきますようお願いする。」旨挨拶されました。会議では、各資料が数年にわたり見直しがなされていないことから、講習の受講生のみならず、各社の警備員教育でも活用できるような効果的な資料を作成することが決定し、施設、交通雑踏、雑踏、貴重品警備業務の各実技資料と学科資料を制作することとなりました。



奥村教育委員長



会議風景

施設2級実技解説DVDを制作

今回、施設警備業務2級実技解説DVD2枚組(1枚は貴重品運搬警備2級共通実技を含む。)を講師部会のみならず、講習スタッフの協力も得て制作し、先般、会員企業に配付いたしました。

当協会で作成した実技解説DVDは、交通誘導警備業務2級、雑踏警備業務2級の各実技解説DVDに引き続き3種類目となります。

特別講習の受講者のみならず、各社の警備員教育等でご活用いただければ幸いです。

収録映像の一部



制作したDVD

警備業紹介映像「パパのおしごと」を撮影

～熊本市、株式会社ジェイコムと共同で制作～

警備員のお父さんの仕事を見学し、子どもに仕事の内容や魅力を伝える警備業紹介映像「パパのおしごと」の撮影が、9月4日の土曜日、上天草市の警備現場等で行われました。

「パパのおしごと」は、警備業の人手不足を解消する目的から、熊本市、株式会社ジェイコムと当協会が共同で制作しています。

今回の親子出演には、(株)トラスト熊本の松本智行さんと長女の陽菜多ちゃん(小学6年生 12歳)に協力いただきました。警備現場で松本さんが陽菜多ちゃんに警備の仕事内容を説明するシーンや、実際の警備現場での仕事の見学、陽菜多ちゃんへのインタビューなどが撮影されました。

現在、編集作業が行われており、近日中に完成予定です。完成後は、熊本市や当協会のホームページへの搭載、各種イベントでの放映の他、ケーブルテレビのJ.COMニュースでも放映される予定となっています。



コロナ禍の中、TOKYO2020 オリンピック、パラリンピックが開催され、アスリートたちが、世界中の人々に勇気と希望を与えてくれました。そして日本の警備業の素晴らしさも世界にアピールできたものと思っています。そして、TOKYO2020を支えるために、熊本県からも多くの警備員が上京し、警備に従事しています。今回、TOKYO2020の警備に従事した㈱コアズ熊本支社の甲田博律氏から寄稿文をいただきましたのでご紹介します。

TOKYO2020 パラリンピック警備を通して

㈱コアズ熊本支社
甲田 博律



検定試験の教本にも必ずと言っていいほど出てくるオリンピックの文字。

TOKYO2020大会も警備のレガシーとすべく業界をあげ様々な調整を行い、弊社の社内でも2年以上前から人選を行い、それに伴う準備を行ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症による延期や、無観客での開催等、各種予定の大幅な変更とオリンピックは、まさに波乱の開幕だった。

その後、感染者の爆発的な増加を経て、パラリンピックに至っては、緊急事態宣言下での開催となった。

私は、社業の関係もあり、パラリンピックからの警備参加となった。

配属されたのは、国立代々木競技場だったが、複数の警備会社と同じ制服で、それぞれ担当業務を分けて業務を行っていた。当然社内でもオリンピックから勤務しているものも多く、オリパラの警備マニュアル外でのイレギュラーなケースも含めて引継ぎを受けながら業務を行った。

オリンピックとの一番の違いは『学生の観客を入れたこと』と『多数の障がい等を持つ関係者が来場すること』だろうと思う。

関係者等の数は当然オリンピックの方が多かったが、『観客が入る』という事で、現場では、VSCCと呼ばれる会場警備本部の指示を仰ぎながら臨機応変に対応していく事となった。

児童観戦についても、直前まで様々な調整等が行われていたことであろうから、当然現場サイドに詳細な情報が伝達されるのが遅くなることもあった。引率者がついていない児童という、統率のとれた団体であったため、受け入れた後はトラブル等もなく児童達にも良い経験であったことと思う。

また、『障がい等への配慮』というのは、観察力と業務への高い応用力が求められる非常に難しく、またやりがいのある業務だと感じた。

会場へは車いすをはじめ、義手義足等目に見えるものだけでなく、視力・聴力・身体機能の障がい等で見るとその障がいの種類が判断できない方も多く来場された。注意深く観察し、それぞれに合わせて適切な案内や誘導方法を判断する必要があった。『合図をする・声をかける』という今まで当たり前に行ってきた事のみでは不十分であることを痛感した。

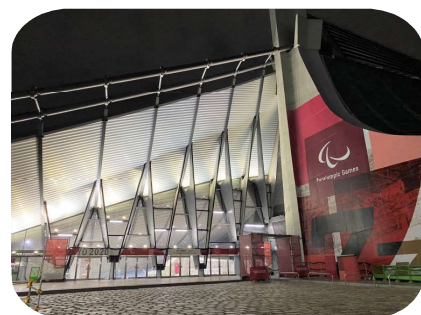
ましては、外国からの関係者等も数多く言葉も通じない中での業務ではあったが、ジェスチャーや片言の英語で何とか意思疎通を図り、来場者に少しでも満足してもらえるよう、警備員やボランティアを含めたスタッフが一丸となって対応した。現場レベルでは、多くの警備員が計画通りにいかないことばかりで日々翻弄され、炎天下の中での業務で疲弊していたが、それを乗り切れたのは、まぎれもなくそこに集まった警備員全員が、一生に一回しか携わらないかもしれないこの仕事に信念と誇りをもって望んでいたからに他ならないと思う。

最後の日に、同じ制服を着た別会社の警備員と『次は大阪万博で会いましょう』と挨拶をかわした。

会社が違ってもまた同じ思いで同志達と仕事をしたいと、多くの警備員が思った事だろう。

最後ではありませんが、我々がオリパラの警備に携わり、また無事に終えることができたのは、我々が不在の際に安心して背中を預ける事ができ、それぞれの社業や熊本の安心安全を守って下さった、この熊本県の警備業界全ての皆様のお陰です。

今後は培った経験を業界に還元できるよう、さらに励んでいく所存ですので、オリパラ警備へ行った者を見かけましたら気軽に声をかけ、差し入れを渡した後に土産話を聞いていただければと思います。



編集後記 酷暑の過ぎ去りとともに、新型コロナウイルスの感染者数も減少してきています。事務局3人も2回のワクチンの副作用で高熱、倦怠感を発症したものの、これ幸いと仕事を休み、骨休め。お見舞いは現在も受付中。ブレイクスルーに要注意の中、各種講習のオンパレードに突入していますが、コロナの影響による中止にならないよう祈るばかりです。皆様も万全の予防をお願いします。 By KAZU